

広神商工会景況調査報告書

1. 調査要領

(1) 調査対象

- ア 対象地区 広神商工会地区内小規模事業者
イ 調査企業数 30 事業所 (うち小規模事業者数 30 事業所)
ウ 回答企業数 30 事業所 (うち小規模事業者数 30 事業所)
(回答率 100.0%)

(2) 調査対象期間

- 平成29年7月～平成29年12月
(調査時点 平成29年12月1日)

(3) 調査方法

- 経営指導員等による巡回または窓口によるヒアリング調査

(4) 調査対象と回答企業の構成

	調査対象		有効回答	
	企業数	構成比	企業数	構成比
製造業	5	16.7%	5	16.7%
建設業	8	26.7%	8	26.7%
卸・小売業	5	16.7%	5	16.7%
サービス業	12	40.0%	12	40.0%
合計	30	100.0%	30	100.0%

2. 地域内産業全体の景況概要

「製造業」は前期水準を上回り改善する一方で「建設業」「卸・小売業」「サービス業」は前期水準を下回っており、依然として厳しい状況が続いている。来期の見通しでは、需要の停滞による停滞基調が続くと感じている事業所が多く、特に建設業では大幅な悪化を予想している。

【後継者の状況】

「後継者なし」と回答した事業所には今後の業績を憂慮し、事業承継を望まない事業主が多い。一方で比較的安定した業績を残しているところでも後継者なし（又は未定）となっている。

後継者 あり	6事業所	20.0%
後継者 なし	24事業所	80.0%

【売上高】

製造業と一部のサービス業を中心に改善の割合が多い。前期比で増加が多のは、建設業・小売業で天候（主に雪）による需給の変化によるため。今後の見通しについては全業種で悪化若しくは不変と予想している。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
増加	不変	減少	増加	不変	減少	増加	不変	減少
12	5	13	19	4	7	6	10	14

【採算】

製造業と一部のサービス業が改善を示した。前期比で好転が多いのは、前述売上高の状況と同様であり、建設業・小売業が主となっている。今後の見通しについては全業種で不変若しくは悪化と予想している。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化
8	11	11	15	10	5	2	17	11

【仕入単価】

全体に不変が多い。今後の見通しについては不変が圧倒的多数となっており、消費税増税まではこのままと予想している。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
上昇	不変	低下	上昇	不変	低下	上昇	不変	低下
5	25	0	3	27	0	0	29	1

【販売（客）単価】

全体に不変が多いが、製造業では上昇が目立つ。今後の見通しについては不変が8割を超えるが、建設業の一部は低下を予想している。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
上昇	不変	低下	上昇	不変	低下	上昇	不変	低下
5	21	4	8	21	1	2	25	3

【資金繰り】

製造業で好転、建設業では悪化を示す割合が高い。今後の見通しについては不変が6割を超えるが、建設業と一部小売業で悪化予想が目立つ。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化
7	13	10	12	16	2	3	19	8

【雇用動向】

不変が最も多い。家族経営の小規模事業者がほとんどであるため、雇用を想定していない事業者が多い。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
増加	不変	減少	増加	不変	減少	増加	不変	減少
0	29	1	0	29	1	0	30	0

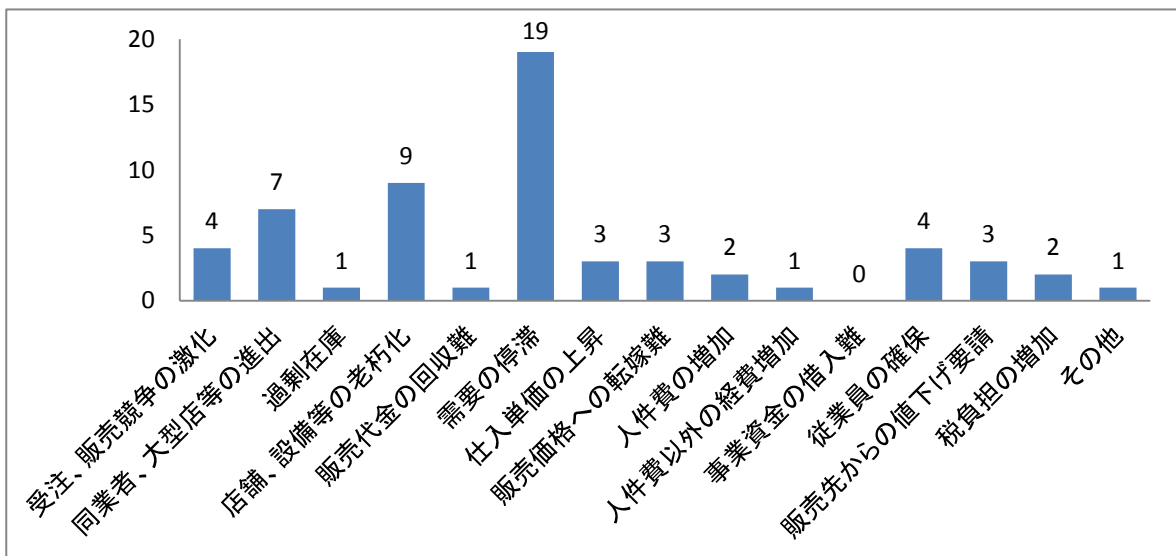
【景況判断】

前年同期比で不変が6割、悪化が3割と相変わらず苦しい経営環境下におかれている。今後の見通しでは不変及び悪化の割合がさらに増えており、回復への期待に乏しい結果となっている。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化
3	18	9	4	20	6	2	20	8

【経営上の問題点】

「需要の停滞」の割合が3割以上で最も高く、以下「店舗、設備等の老朽化」(15%)、「同業者、大型店等の進出」(11.6%)などとなっている。「需要の停滞」については全業種で回答が多く、「同業者、大型店等の進出」については小売業で回答が多かった。



3. 産業別景況概要

(1) 製造業

・全ての項目において比較的好調に推移している。
・取引先から高いレベルの技術を要求されるが、それに応えることができれば受注は途切れることが無い。一方で、人材教育・育成が追いついていない。
・電子部品製造業では、日本回帰の流れの中総じて改善となってきた。比較的好調とはいえ、先行きの見通しが不透明の状況の上、もともと薄利の業種のため、設備等が老朽化していてもなかなか設備導入を決断できないため、生産性向上がそれほど望めない状況にある。

(2) 建設業

・公共事業、民間需要をはじめ需要が減少しており、「売上」「採算」「資金繰り」が悪化している。
・経営上の課題では「需要の停滞」をあげる割合が最も多い。需要が無い（あるいは仕事が少ない）ため従業員を抱えているところは人件費の支払が厳しい状況にある。
・今後の見通しでは「売上」「採算」とも大幅な悪化を予想しており、強い停滞感が生まれている。

(3) 卸・小売業

・「売上」「採算」ともに停滞・減少傾向にある。
・経営上の問題点では「同業者、大型店等の進出」が最も多く、次いで「需要の停滞」が続いている。人口減少による需要の停滞と近隣の大型店の影響が卸・小売業の経営に大きな影響を与えている。
・今後の見通しでは「売上」の悪化を予想しており、消費動向の停滞を感じる。

(4) サービス業

・「売上高」「採算」でわずかな改善を示している。
・経営上の問題点としては、「需要の停滞」が最も多い。
・今後の見通しは総じて不変と予想しているが、需要動向によるため予断を許さない経営環境にある。

(様式⑤)

No.	
-----	--

景況調査ヒアリングシート (平成29年度)

調査対象期間 平成29年7月～12月
(調査時点 平成29年12月1日)

商工会名	商工会	担当職員名	
企業の概要	業種	1:製造 2:建設 3:卸・小売業 4:サービス他	
	従業員数	1:0人 2:1人～2人 3:3人～5人 4:6人～20人 5:20人超	
	企業区分	1:小規模事業者 2:小規模事業者以外	
	後継者の有無	1:有 2:無	

(1) 貴社の状況についてお答えください。(該当する番号に○を付してください。)

	前年同期(H28年7～12月)と比較して	前期(H29年1月～6月)と比較して	今期(H29年7～12月)と比較した来期(H30年1～6月)の見通し
売上	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少
採算(経常利益)	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化
仕入単価	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下
販売(客)単価	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下
資金繰り	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化
雇用動向	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少
景況判断	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化

(2) 貴社の経営上の問題点(下記より上位3つまでを選び、○を付してください。)

- ①受注、販売競争の激化
- ②同業者、大型店等の進出
- ③過剰在庫
- ④店舗、設備等の老朽化
- ⑤販売代金の回収難
- ⑥需要の停滞
- ⑦仕入単価の上昇
- ⑧販売価格への転嫁難
- ⑨人件費の増加
- ⑩人件費以外の経費増加
- ⑪事業資金の借入難
- ⑫従業員の確保
- ⑬販売先からの値下げ要請
- ⑭税負担の増加
- ⑮その他 ()

(3) 今後の事業・経営において強化したい点(設備投資・販路開拓等)

--